



1 課題

「ヤング(若者)ケアラー」という潜在化した地域生活課題を有する当事者のニーズ把握が困難なこと。
ニーズに基づいた支援策の検討が不十分であること。

2 概要

ヤングケアラー・若者ケアラーが抱えているニーズを把握し、有効な支援を検討し、教育・福祉のみならず地域資源を含めた包括的な支援体制の構築のための知見の収集を行う。また、協力頂ける学校には職員研修も実施し、啓発を行う。

大学

山崎 茜

広島大学

大学院人間社会科学系研究科



講師

市担当課

×

健康福祉部
地域共生推進課

本来感の平均値		
ヤングケアラー経験の有無	平均値	標準誤差
ヤングケアラーではない	3.35	0.10
わからない	3.36	0.42
過去ケアラーだった	2.60	0.38
現在ケアラーである	3.43	0.59

▲【学生調査結果】過去ケアラーだった学生は本来感を感じにくい様子が伺える
(R5実施調査より)

3 研究成果 データ取得・分析

●ヤングケアラーに関する教職員研修・アンケート調査・生徒へのフォローアップの一体的実施

①市内A中学校(全学年386人)に対する教職員研修の実施(ヤングケアラーに対する理解促進)

②生徒を対象とするアンケート調査の実施

⇒結果、ケアにより学校生活上の困り感を抱えている生徒が26人いることが分かった。具体的な困り感としては、ケアによる自身の睡眠不足、学習時間や余暇時間の減少であった。また、この26人以外にも軽度な家族のケア(家族との会話、洗濯、食器洗い等の家事)を担っている生徒が存在することが判明。

③生徒に対するフォローアップ:広島大学生による学習支援を実施(メンターとしての役割)。

4 今後の展望・現状 市の業務で応用

・支援の優先度が高い生徒については、学校・スクールソーシャルワーカー等と連携し、ヤングケアラー等サポート事業等への接続も視野に個別支援を実施。

・学校と福祉の連携を通じた支援を検討することで、地域資源を含めた包括的な支援体制を構築する。